

——— 医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読みください。 ———

2026年3月

## 「使用上の注意」改訂のお知らせ

### マクロライド系抗生物質製剤

日本薬局方クラリスロマイシン錠  
クラリスロマイシン錠 200mg 「TCK」

製造販売元 辰巳化学株式会社  
販売元 株式会社フェルゼンファーマ

日本薬局方クラリスロマイシン錠  
クラリスロマイシン錠 200mg 「フェルゼン」

製造販売元 株式会社フェルゼンファーマ

この度、標記製品につきまして「使用上の注意」の改訂を致しましたので、お知らせ申し上げます。  
今後の弊社製品のご使用に際しましては、下記内容をご高覧くださいますようお願い申し上げます。

#### <改訂内容(2026年3月改訂)>

変更箇所(  医薬安通知、  自主改訂)

改訂後	改訂前
<p>2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)</p> <p>2.1 (省略、変更なし)</p> <p>2.2 ピモジド、エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン、ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩、スポレキサント、ダリドレキサント塩酸塩、ボルルレキサント水和物、ロミタピドメシル酸塩、タダラフィル[アドシルカ]、<u>マシテンタン・タダラフィル</u>、チカグレロル、イブルチニブ、イバブラジン塩酸塩、ベネトクラクス(慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫を含む)、再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫の用量漸増期)、ルラシドン塩酸塩、アナモレリン塩酸塩、フィネレノン、イサブコナゾニウム硫酸塩、ボクロスポリン、マバカムテン、<u>アゼルニジピン</u>、<u>オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン</u>、<u>ロナファルニブ</u>を投与中の患者 [10.1 参照]</p> <p>2.3 (省略、変更なし)</p>	<p>2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)</p> <p>2.1 (省略)</p> <p>2.2 ピモジド、エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン、ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩、スポレキサント、ダリドレキサント塩酸塩、ボルルレキサント水和物、ロミタピドメシル酸塩、タダラフィル[アドシルカ]、チカグレロル、イブルチニブ、イバブラジン塩酸塩、ベネトクラクス(再発又は難治性の慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫を含む)、再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫の用量漸増期)、ルラシドン塩酸塩、アナモレリン塩酸塩、フィネレノン、イサブコナゾニウム硫酸塩、ボクロスポリン、マバカムテンを投与中の患者 [10.1 参照]</p> <p>2.3 (省略)</p>

改訂後			改訂前		
10. 相互作用			10. 相互作用		
10.1 併用禁忌(併用しないこと)			10.1 併用禁忌(併用しないこと)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(省略、変更なし)	(省略、変更なし)	本剤のCYP3A	(省略)	(省略)	本剤のCYP3A
タダラフィル 〔アドシルカ〕 マシテンタン・タダラフィル 〔ユバンシ〕 [2.2 参照], [16.7.1 参照]	左記薬剤の血漿中濃度が顕著に上昇し、その作用が著しく増強するおそれがある。	に対する阻害作用により、左記薬剤の代謝が阻害され、それらの血中濃度が上昇する可能性がある。	タダラフィル 〔アドシルカ〕 [2.2 参照], [16.7.1 参照]	左記薬剤の血漿中濃度が顕著に上昇し、その作用が著しく増強するおそれがある。	に対する阻害作用により、左記薬剤の代謝が阻害され、それらの血中濃度が上昇する可能性がある。
(省略、変更なし)	(省略、変更なし)		(省略)	(省略)	
ベネトクラクス(慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫を含む)、再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫の用量増期) 〔ベネクレクスタ〕 [2.2 参照], [16.7.1 参照]	腫瘍崩壊症候群の発現が増強するおそれがある。		ベネトクラクス(再発又は難治性の慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫を含む)、再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫の用量増期) 〔ベネクレクスタ〕 [2.2 参照], [16.7.1 参照]	腫瘍崩壊症候群の発現が増強するおそれがある。	
(省略、変更なし)	(省略、変更なし)		(省略)	(省略)	
マバカムテン 〔カムザイオス〕 [2.2 参照], [16.7.1 参照]	マバカムテンの血中濃度が上昇し、副作用が増強され、収縮機能障害による心不全のリスクが高まるおそれがある。		マバカムテン 〔カムザイオス〕 [2.2 参照], [16.7.1 参照]	マバカムテンの血中濃度が上昇し、副作用が増強され、収縮機能障害による心不全のリスクが高まるおそれがある。	
アゼルニジピン 〔カルブロック〕 オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン 〔レザルタス〕 [2.2 参照], [16.7.1 参照]	アゼルニジピンの血中濃度が上昇し作用が増強するおそれがある。				
ロナファルニブ 〔ゾキンヴィ〕 [2.2 参照], [16.7.1 参照]	ロナファルニブの血中濃度が著しく上昇し、副作用が増強するおそれがある。				

変更箇所(            医薬安通知、            自主改訂)

改訂後			改訂前		
10. 相互作用			10. 相互作用		
10.2 併用注意(併用に注意すること)			10.2 併用注意(併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(省略、変更なし)			(省略)		
ベンゾジアゼピン系薬剤(CYP3Aで代謝される薬剤) (省略、変更なし) カルシウム拮抗剤(アゼルニジピンを除くCYP3Aで代謝される薬剤) 〔ニフェジピン ベラパミル塩酸塩等〕 (省略、変更なし) [16.7.1 参照]	左記薬剤の血中濃度上昇に伴う作用の増強等の可能性があるため、異常が認められた場合には、投与量の調節や中止等の適切な処置を行うこと。 なお、トルバプタンにおいては、本剤との併用は避けることが望ましいとされており、やむを得ず併用する場合には、トルバプタンの用量調節を特に考慮すること。	本剤のCYP3Aに対する阻害作用により、左記薬剤の代謝が阻害される。	ベンゾジアゼピン系薬剤(CYP3Aで代謝される薬剤) (省略) カルシウム拮抗剤(CYP3Aで代謝される薬剤) 〔ニフェジピン ベラパミル塩酸塩等〕 (省略) [16.7.1 参照]	左記薬剤の血中濃度上昇に伴う作用の増強等の可能性があるため、異常が認められた場合には、投与量の調節や中止等の適切な処置を行うこと。 なお、トルバプタンにおいては、本剤との併用は避けることが望ましいとされており、やむを得ず併用する場合には、トルバプタンの用量調節を特に考慮すること。	本剤のCYP3Aに対する阻害作用により、左記薬剤の代謝が阻害される。
ベネトクラクス(慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫を含む)の維持投与期、再発又は難治性のマンテル細胞リンパ腫の維持投与期、急性骨髄性白血病) [16.7.1 参照]	ベネトクラクスの副作用が増強するおそれがあるので、ベネトクラクスを減量するとともに、患者の状態を慎重に観察すること。		ベネトクラクス(再発又は難治性の慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫を含む)の維持投与期、再発又は難治性のマンテル細胞リンパ腫の維持投与期、急性骨髄性白血病) [16.7.1 参照]	ベネトクラクスの副作用が増強するおそれがあるので、ベネトクラクスを減量するとともに、患者の状態を慎重に観察すること。	
(省略、変更なし)			(省略)		

<改訂理由>

先発医薬品の改訂に基づき、相互作用相手薬との記載の整合を図るため「禁忌」「併用禁忌」及び「併用注意」の項に薬剤名等を追記しました。

- 本改訂情報は、「医薬品安全対策情報(DSU)No.344 (2026年4月)」に掲載されます。
- 最新の電子化された添付文書情報については、以下よりご確認ください。
  - ・株式会社フェルゼンファーマ 医療関係者向けサイト(<https://www.feldsenpharma.co.jp/product.html>)
  - ・PMDA ホームページ(<https://www.pmda.go.jp/>)
  - ・添付文書閲覧アプリ「添文ナビ®」を用いて、以下のGS1バーコードを読み取ることで、最新の添付文書をご覧頂くことが可能です。

クラリスロマイシン錠  
「TCK」



(01)14987923306309

クラリスロマイシン錠  
「フェルゼン」



(01)14987923102000